

約定主義 / 時価会計対応を実現する「生保版TriMaster/PX」

2001年3月から始まる金融資産の約定主義 / 時価会計開示を前に、各金融機関のシステム対応が慌ただしくなってきた。そうした中、NRI（野村総合研究所）では、生命保険会社向け有価証券管理バックオフィスシステムを開発中である。本稿では、生命保険会社の計理基準に準拠した「生保版TriMaster/PX」の機能概要を紹介する。

構築着手の背景

2001年3月末決算における金融資産の約定主義 / 時価会計開示を実現するために、生命保険会社や信託銀行をはじめとする各種金融機関は、現在、急ピッチでシステム対応を進めている。これにより、発生ベースでの計理処理が実現されるほか、諸機関への報告書も新しいルールに則ったものに一新されるなど、従来の日本独特の会計基準がグローバルスタンダードに引き上げられることになる。これに対応するためにはまったく新しい業務と処理ならびにシステムの構築が必要になってきており、そのシステム投資はかなりのものになることが予想されている。

約定主義 / 時価会計開示に対応するシステムとして、これまでNRIは、信託銀行向けに機関投資家の財産管理業務のためのパッケージソフトである「TriMaster/PX」を提供してきたが、生命保険会社からも制度改革に対応した業務を実現するシステムの提供を求める声が強かった。

そこで、NRIでは、生命保険会社のニーズに応えるべく、TriMaster/PXをベースとして当該業務に対するソリューションを提供する生命保険会社向け有価証券管理システム

「生保版TriMaster/PX」の開発を開始した。

生保版TriMaster/PXは、特別勘定分を2001年春、一般勘定分を2001年夏にリリースの予定である。

生保版TriMaster/PXの機能概要

生保版TriMaster/PXの機能概要は、次のとおりである。

商品管理機能（ファンド管理）

- ・区分経理対応……一般勘定の財務データに入力したデータを、区分ファンドへ按分する。
- ・資産評価・ユニット価格算出機能……日々の評価結果からユニット価格を算出し、そのデータを保存する。
- ・生保決算処理機能……約定主義 / 時価会計に対応して保有目的別に決算処理する。

ディスクローズ機能

独立したディスクローズ用データベースを持ち、次のような各種レポートの作成が可能である。

- ・統合レポート用データ
- ・統一ディスクローズ帳票
- ・年金福祉事業団向けディスクローズ（帳票、磁気テープ）

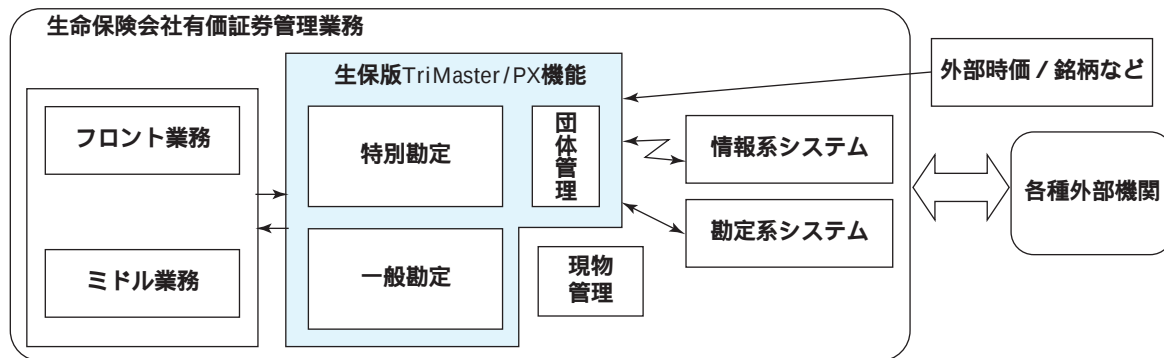


図1 生保版TriMaster/PXの機能概要

団体管理機能（特別勘定）

団体ごとの各ファンドへの入出金を管理することにより、各団体、ファンドごとのユニット口数、積立金の管理を行う。また商品管理機能のユニット価格算出との機能連携を実現する。

NRIソリューション群との連携

生命保険会社は、生保版TriMaster/PXを単独で導入し、約定主義/時価会計開示に対応した有価証券管理業務を実現することができる。さらに、NRIの一連のソリューション群と標準的に接続することで、有価証券取引決済制度改革の要である決済時限短縮、いわゆる「T+1」（約定日翌日決済）や、その他の制度改革に対応した業務をも実現することができるようになる。

たとえば、約定発注データや証券会社から受信する取引データに基づいて各システムと連携することにより、同一データの重複入力が避けられるなど、システムによる処理の自

動化の範囲を拡張することができる。

この結果、NRIソリューション群の連携によって、社内外のSTP（ストレート・スルー・プロセッシング）化が進展し、T+1対応のスムーズな実現が可能となる。

今後の展望

金融制度改革の潮流の中、生命保険会社における有価証券管理業務は、パッケージシステムの活用や業務のアウトソーシング、システム運用サービスの活用などをとめた変革が進み、マスタートラストとしての信託銀行が資産管理業務サービスの一貫として、有価証券管理業務を行う方向へと進むであろう。

今後、NRIでは、生保版TriMaster/PXをパッケージで提供するだけに留まらず、システム運用・保守サービスの提供をも含めたサービスの拡充を行い、生命保険会社だけでなく、信託銀行や事務代行サービス会社などへも適用範囲を広げていく予定である。

（野村総合研究所 井上摩紀子）